

岡山県学力・学習状況調査の結果に基づいた 学習指導の改善に向けて～国語編～



岡山県学力・学習状況調査の結果に基づき、**学習指導の改善例**を紹介します。今号では、国語科における**書くことの領域**の設問を取り上げます。各校における取組の参考にしてください。

解答類型 大問7「作文」～指定された文字数で文章を書くことができる～

学年	小3	小4	小5	中1	中2
文字数(字)	46～105	101～160	121～180	141～180	141～200
正答率(%)	74.1	56.0	67.8	60.9	63.4
A 無解答率(%)	16.5	19.9	16.5	20.7	21.8
B 指定された文字数に満たない解答(%)	9.5	24.1	15.7	18.4	14.8

無解答の児童生徒と、解答を書いてはいるが、指定された文字数に満たない児童生徒に対して、今後、どのように指導するとよいか、考えてみましょう。



©岡山県「うらっち」

※表の数値は、県全体の平均値です。

STEP①：東京書籍「Web評価支援システム」を活用し、誤答分析を行う。

A **解答類型**を見ると、無解答率が比較的高いです。

Aさんは、言葉が浮かばなかったのかな？
Bさんは、問題文が読めなかったのかな？



B **実際の答案**をWebで確認すると、今後、何を指導するとよいかが分かるな。

Cさんには、構成について指導しよう。
Dさんには、記述について指導しよう。

「Web評価支援システム」の数値と普段の授業の様子を関連付けながら分析することが大切です。無解答の児童生徒に直接「なぜ、書けなかった(書かなかった)」のか聞き取ることも考えられます。



STEP②：児童生徒の実態に応じた指導や支援を行う。

A 無解答の児童生徒への手立ての例

他者の言葉を参考にして書けるように、作文を書く単元の前半で**構想メモを書き、お互いの書いた内容を知る場面を設定しよう。**

- 構想メモを書く時に次の内容を指導する。
 - ・箇条書きで書く。 ・単語だけ書く。
 - ・省略する。(例:持ち物→持) ・記号を使う。(例:☆、×)

- 構想メモを交流をする時に次の内容を指導する。
 - ・強調する。(例:丸で囲む。下線を引く。)
 - ・仲間分けや関連付けをする。(例:矢印や線でつなぐ。)

問題文を注意して読めるように、授業で**問題を示した後、理解できているか確認する**ようにしましょう。

- 問題の中の言葉に注目するようにする。
 - ・「問題の中で、大切な言葉は何ですか？」
 - ・「問題の中で、分からない言葉はありますか？」

- 問題にどう取り組むか問うようにする。
 - ・「どうやって解決したらよいと思いますか？」
 - ・「今まで学んだことで、使えそうなことはありますか？」

B 指定された文字数に満たない解答をした児童生徒への手立ての例

構成(事実と意見を分けて書く)について「構成メモ」を使って次の内容を指導しよう。

- **初めに自分の意見を書き、それを裏付ける事実を書く。(意見→事実)**
(例)私は、〇〇だと思います。なぜなら、△△だからです。私が〇〇だと思った理由は、△△です。

- **具体的な事実を一般化し、自分の意見へつなげる。(事実→意見)**
(例)本文(図や表も含む)には、△△と書かれています。だから、私は〇〇だと思います。

記述するときの基本的なことについて指導する時間を設定しよう。

- **問題文(図や表も含む)の中に出てくる言葉を使うようにする。**
(例)友だち→となりの県に住んでいる友だち
〇〇が楽しかったです。→学校の外に出かけたときに、楽しかったことは〇〇です。

- **資料から引用する時の言葉を使うようにする。**
(例)本文には～。図1をみると～グラフAとグラフBを比べると～。